

令和7年度 第3回学校運営協議会 次第

浜松市立三方原中学校

司会 主幹教諭

※ 開催要件確認

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出

4 前回会議録の確認 (CS ディレクター)

5 熟議(議長)

(1) 「総合的な学習の時間」における体験学習について (1学年主任)

① 1年地域学習について

(2) 教育活動の経過報告 (主幹教諭)

(3) 部活動の地域クラブ化について (校長)

6 協働センター所長より 感想、意見

7 報告

8 連絡

・次回以降の開催日時・内容について

回	期日	時間	内容
第4回	2月17日(火)	15:00～16:30	・令和7年度学校関係者評価について ・学校運営協議会の自己評価について ・令和8年度学校運営の基本方針について

閉会

三方原中学校 学校運営協議会 委員一覧

学校運営協議会代表

中川 秀三

地区自治連合顧問・学校運営協議会委員

鈴木 登志郎

学校支援コーディネーター・学校運営協議会委員

中村 雅俊

三方原中 PTA 顧問・学校運営協議会委員

岡本 秀人

三方原中 PTA 会長・学校運営協議会委員

細川 銀河

三方原中 PTA 会計監査・学校運営協議会委員

磯部 聖子

三方原中 PTA 副会長

中村 雅臣

三方原中 PTA 副会長

中野 久美子

オブザーバー 三方原協働センター所長

澤木 克彦

浜松市教育委員会

鈴木 陽子

三方原中学校 CS担当職員

校長

足立 成寿

教頭

岡田 政之

主幹教諭

古橋 宏直

生徒指導主事

山岡 文彦

1 学年主任

堀野 直子

CS担当

大津 幸三郎

CSディレクター

外山 直世

総合的な学習での体験学習

2025年11月20日

8組

1年生

2年生

3年生

11月19、20日の2日間は、全学年が総合的な学習の時間で、体験学習を行いました。

個々にテーマや課題をもって、それぞれの活動に取り組みました。

普段の学校生活ではできないこと体験したり、本物に触れ合ったりすることで多くの学びがあったと思います。

今後の自分の生き方にもつながるキャリア教育としても、とても充実した研修になりました。

今回の体験学習のために多くの方々のご協力がありました。

講師の皆様、地域の皆様、受け入れていただいた施設の皆様、ありがとうございました。

1年生 地域学習 ～「三方原」の過去・現在から学ぶ～



2年生 職業学習 ～未来授業を通して～



3年生 福祉体験学習 ～未来を拓く～



8組 職場体験学習 ～おかしやじろう・浜松学園～





「地域学習」三方原のよさを発見！

11月19日に、地域学習として「事業所訪問」を行いました。地域の15か所の事業所に分かれ、農業、工業、商業、福祉、歴史や文化について見聞を広めました。生徒たちは、リーダーを中心にルールやマナーを守って活動に取り組み、三方原地区のよさや特徴について学ぶことができました。生徒の感想の一部を紹介します。



<遠州鉄道三方原営業所>

ぼくは、バスのことを知らなかったのですが、今日話を聞いていろいろ分かりました。驚いたことは2つあります。1つは、高速バスイーライナーの中でWi-Fiがつかえることです。2つめは、運転手さんのハンドル時間は7時間、拘束時間は10～12時間仕事していることです。想像よりも長くとても驚きました。とても大変そうだと思います。 長田 龍之介

<ヤマハ発動機ロボティクス事業部>

ヤマハでは、お客様満足度を高め、次からもヤマハを選んでほしいとお客様のことが大切にしていてとても素敵だなと思いました。近くを通ったときに、中が気になっていたのもとても勉強になりました。CS部には、カスタマーサービスやサポートがあり、スマホやゲームなどで使われる部品なども作っていることが分かりました。 萩原 樹

<三方原協働センター>

協働センターの見学を通して、地域の人々が協力してまちづくりをしていることを実感しました。協働センターには、地域の活動やイベントの情報がたくさんあります。子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できる場所で、地域の人との絆が深まる場所だと感じました。これから地域のために何かできることをみんなで考えていきたいです。 寺島 翔大

<聖隷三方原病院>

私は、ホスピスの話とドクターヘリの話が印象に残りました。ホスピスは、家族と過ごせる場所で手すりがなく、普通の病棟と違って落ち着く雰囲気だと感じました。ドクターヘリは初めて実物を見ることができ、乗ることができてうれしかったです。お話を聞いて、私も将来、地域の人や誰かの役に立てる人になるという気持ちになれました。 和田 結衣

<浜松いわた信用金庫>

私は、一千万円が1kgあることがびっくりしました。また、信用金庫と銀行の違いについても分かりました。預金をしたほうが良いことや、預金をするメリットなどいろいろ知りました。他にもギャラリーポテトは自分の描いた作品もかざられることがわかったので、休みの日などに地域の人々が描いた作品を見ようと思いました。 青山 芽生

<ヘルツ電子>

訪問してみて思ったことは、無線技術は身近にあり、とても便利で大切なものだと思います。そして、ヘルツ電子の部品が身近なスーパーやホームセンターにあることを知りすごいと思いました。作業をする上では欠かせない便利な製品を作っていると知り、他の会社と助け合って仕事をしているのがすごいと思いました。 河原 奉汰

<光緑園>

光緑園に行って、普段何気なく飲んでいるお茶が1年を通してあんなに大変な思いをして作ってくださっていることを知りました。毎年、同じお茶をつくるのはとても大変だということが分かり、お客さんの気持ちを第一に考えていることがわかりました。 水野 結梨

<中村農園>

チンゲン菜のことについて分かりやすく説明してくださったおかげで、収穫の仕方や時期などをたくさん知ることができました。さらにチンゲン菜を袋や箱につめる貴重な体験をさせていただき難しかったです。また、私も「何事も自分次第」という言葉を大事にして、これからの色々なできごとに対してがんばっていきたいです。 大塚 このみ

<とびあ浜松>

私が特に印象に残ったことは、利潤についてではなく、お互いに助け合い、生活を守り高めることを目的としてJAができたということです。全体で協力して、地域の支えとなっていることを知り感動しました。また、多くの仕事があることを知り、仕事のやりがいには地域の人に喜んでもらえる、感謝してもらえることであると分かりました。 住吉 里依紗

<中消防署>

特に印象に残ったことは、放水をやらせてもらったことです。ものすごく重い服を着ながら、地域の人を助けているのがすごいと思いました。人を守るのがとてもかっこいいと思いました。消防署のみなさんが僕たちの安全な暮らしを守るために、昼夜問わず一生懸命働いてくださっていることを強く感じました。 馬淵 晴

<ファーマーズマーケット>

農家さんが夕方や朝早くに収穫し、自ら商品を棚に並べたり、値段をつけたりしていることに驚きました。そして、万が一売れ残ってしまったものがあれば責任をもって持ち帰り、次の日にはまた新しい作物を並べているので、とても新鮮でおいしく食べられることが分かりました。少しでもいいものを買ってほしいという農家さんの願いが込められていると知って、お客様のことを考えているのだと思いました。 渡邊 実桜

<三方原神社>

三方原の戦いのことや、三方原の歴史、神社のことがよくわかりました。例えばお祭りの費用が150万~200万円の費用がかかることや、12人で1年交代制で神社の手入れをしていることを知りました。お祭りでは、子どもたちのためにしてくれたり、少しでも子供たちに楽しんだりしてほしいという気持ちが伝わってきました。 根岸 和希

<酒井農園>

農業の苦労ややりがいなどを知り、とても勉強になりました。「おいしい」と言ってもらえるジャガイモやダイコンをつくるのは大変だけど、こういう嬉しい言葉がまたおいしい大根やじゃがいもを作れる元気になることが分かりました。台風や大雨が来ても、受け入れるところがすごいと思いました。これから自然の恵みに感謝して「いただきます」「ごちそうさま」などの言葉を感謝して言い、ごはんを食べたいと思いました。 木田 望歩

<ヴェルデファーム>

葉ねぎの収穫作業と葉ねぎを計り、袋に丁寧に入れる作業をさせていただきました。見ているだけでは簡単に見える作業も、実際にやってみると、意外と難しく大変でした。今回の事業所調べを終えて、葉ネギの魅力についてよくわかりました。今日、教えてもらったことを家族に伝えます。 鈴木 遥日

<兼子ファーム>

じゃがいもや堆肥について知らなかったことが知れてとてもためになりました。特に、ジャガイモが害虫に食われにくいことや赤土は有機物が増えると黒っぽくなることは知らなかったのが意外でした。苦労や工夫、コツなどたくさんのことを教えていただきました。 増成 恵理



令和7年度 三方原中学校 教育活動の経過報告

学校教育目標 高い知力 豊かな心 丈夫なからだ

①学校行事（体育大会）

☆☆秋晴れ 生徒一人ひとりが輝く舞台！☆☆

「希取勝取（キットカット）～希望も勝利もシェアしよう～」のスローガンのもと、体育大会が10月8日（水）に行われました。吹奏楽部によるマーチング披露から始まり、それぞれの縦割り団によるエール交換が行われました。そして競技では、徒競走や綱引き、みんなでジャンプ（長縄跳び）、男女混合縦割りリレーなどに取り組み、そしてクライマックスは男女の学級対抗リレーと、どの団からも応援の声が運動場いっぱいに広がりました。勝ち負けはあるのですが、終わった後の選手の様子は、力を出し切り、やり遂げた充実感であふれていました。三中生の一生懸命な姿に感動しました。



②学校行事（三翔発表会）

☆☆歌良天晴～空までとどくハーモニー～☆☆

本年度の三翔発表会が、10月30日（木）4年連続、サウ音楽ホールで開催されました。今まで練習してきた合唱の発表になります。どのクラスも今までの練習の成果を発揮し、無事に終わることができました。また、ステージ発表ではマジック、和太鼓演奏、タップダンス、ダンス、更に理科部の研究発表、英語スピーチが行われました。

この日を迎えるまでにクラスが一つになり、一つの合唱を作り上げるその姿は、聞いている人たちを感動させました。

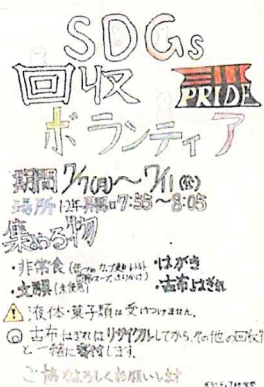


③ボランティア活動

☆☆SDGs回収ボランティア☆☆

7月7日～11日の5日間、SDGs回収ボランティアを行いました。

ボランティア研究部が企画し、全校生徒へ呼びかけました。今回は、非常食、はがき、古布、文房具等過程で使用していないものを回収しました。古布、はがきは新たな品へリサイクルし、フード、文房具は寄付します。



☆☆認知症サポーター養成講座と認知症の方のためのマフ製作☆☆

6月後半から7月に地域包括支援センター三方原の職員さんが来校し、認知症サポーター養成講座が開かれ、ボランティア研究部の生徒が参加しました。講座を受け、認知症の方々のためのマフ製作を行うこととなり、地域ボランティアの方々のご指導のもと、マフ製作を行いました。マフの土台とパーツを組み合わせ、完成したものを夏休み中に届ける予定です。



④部活動

☆☆夏季大会、女子総合優勝 & 新人大会、男子総合優勝☆☆

本当に素晴らしい結果です。優勝カップは生徒昇降口、優勝旗は校長室に飾られています。また、いただいた賞状は合計で171枚でした。部活動で、浜松地区、西部地区を勝ち進み、夏季県大会（団体又は個人）以上へ進んだのは9部活ありました。更にその上の東海大会へは、陸上競技部（4×100m低学年リレー、女子円盤投）、男子卓球部（団体）、水泳部（女子400m個人メドレー）、男子ソフトテニス部（個人）でした。3年生を中心としてその力を発揮しました。応援ありがとうございました。



☆☆吹奏楽部 東海大会で銀賞☆☆

吹奏楽部は、8月9日（土）に富士ロゼシアターで行われた静岡県吹奏楽コンクール（中学生A部門）に出場しました。西部地区（金賞）、静岡県（金賞）と素晴らしい成績を収めました。

また、10月11日（土）長野ビックハットで行われたマーチング東海大会に出場し、銀賞に輝きました。



⑤『夢』講演会

☆☆香取貴信氏「はごろも『夢』講演会」開催☆☆

「社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった」の著者で香取感動マネジメントの香取貴信氏をお迎えして教育講演会を開きました。「働くことは、金を稼ぐことだと思っていた」こんな言葉から始まったお話では、キャストとして出会った来場者の方たちとのエピソードが語られました。たくさんの来場者、そしてキャスト仲間との出会いが香取さんの考えや生き方を変えてくれたことをテンポよく語られました。

「夢」については、「夢ができれば毎日十回は口に出して言うこと」とお話しされ、漢字の「叶」の文字をもとにしたお話に生徒は納得していました。

香取さんのキャスト仲間の加賀屋さんのエピソードでは、夢に向かって進むためにできない理由を考えるのではなく、夢のために続ける理由を考え続ける姿勢が、夢を叶えることにつながるという話をされました。映像を交えて加賀屋さんの真っすぐな生き方に触れ、生徒たちも驚きながらも共感できました。

講演を終えられた後、校長室で色紙に言葉を残してくださいました。「Go for it! 行くしかねえだろ!」



浜松市が目指す
地域クラブ活動

『はまクル』始動

2026年9月より
休日の学校部活動は地域クラブ活動に変わっていきます



浜松市では、すべての中学生が安心して
スポーツや文化芸術活動が続けていける環境を目指し、
地域の人たちで運営し、中学生がだれでも参加できる
地域クラブ活動「はまクル」を推進していきます。

まずは休日から。

一人一人がやりたい活動を思いきり楽しみ、
上手になりたい人は力を伸ばし、
仲間とのキズナや地域の人たちとのつながりを深めていく。
そんな、ワクワクする地域クラブをみんなでつくっていきます。



『浜松市「休日の部活動の地域展開」に関するガイドライン』(案)を
2025年10月24日(金)に公表しました。

通称「はまクルガイドライン」



概要版



全文

ロードマップ

準備期間

～2026年3月

- ▶ 制度の周知や申請方法のご案内
- ▶ 団体・指導者は申請・登録の準備

申請期間(予定)

2026年4月～

- ▶ 「はまクル認定クラブ」の申請受付開始
- ▶ 指導希望者は「はまクル人材バンク」へ登録
- ▶ 参加を希望する生徒の入会受付開始

移行開始

2026年9月～

- ▶ 学校の休日部活動は原則終了
- ▶ はまクル認定クラブの活動開始

なぜ休日の学校部活動が 地域クラブの活動に変わるの



これまでの部活動は、学校の先生が中心となって指導をしてきました。しかし、少子化の影響で生徒数が減り、チームをつくるのが難しくなったり、先生の負担が大きくなってきたりと、今の形のまま続けるのが難しくなっています。

そこで浜松市では、部活動のよさを残しつつ、休日については学校の部活動の枠にとらわれず、みなさんがスポーツや文化芸術活動に継続的に取り組むことができる環境をつくっていくこととしました。これを「休日の部活動の地域展開」といいます。

「はまクル」とは、浜松市が目指す地域クラブ活動のことです。はまクルの理念に沿って認定を受けた「はまクル認定クラブ」では、地域の人たちと共に、これまでの部活動にある競技や文化芸術活動だけでなく、さまざまな競技や活動を楽しめるようにしていきます。

ぜひ、自分に合ったクラブ活動を見つけて、参加してみてください！

参加の流れ

※すでに入会しているクラブがはまクル認定クラブになる場合は、特に入会の手続きはありません。

1 参加したいクラブを探そう

ポータルサイト（準備中）をチェックして、はまクル認定クラブからやってみたいクラブを探してみましょう。クラブの方針や活動場所への移動手段、参加費等を確認し、ご家族で相談して決定しましょう。

2 クラブに連絡を取ろう

参加したいクラブが決まったら、ポータルサイト（準備中）から問い合わせや申し込みをしましょう。最初は見学や体験から始めてみるのもよいでしょう。

3 クラブに入会して活動をスタートしよう

申し込み完了後、活動日時や場所、持ち物等をよく確認し、はまクル認定クラブの活動に参加しましょう！

いよいよ活動がスタートです！



「はまクル認定クラブ」のメリット

✓ 認定クラブだから安心

「はまクル認定クラブ」は、浜松市が定める認定要件をすべて満たした団体です。各クラブは、はまクルガイドラインに沿った活動を行っていくので、安心して参加できます。

✓ 自分の興味で選べる

休日に参加するクラブとして、興味のあるスポーツや文化芸術活動を、自分で選んで参加できます。複数のクラブに参加することもできます。

✓ 新たな活動にチャレンジできる

学校の部活動に設置されていない種目や分野でも、気軽にチャレンジすることができます。自分の新たな可能性を広げるチャンスです。

✓ 地域とのつながりが生まれる

クラブによっては、地域の大人や他の学校、他の年代の仲間と一緒に活動できて、交流が広がります。

はまクル認定クラブを運営したい方へ

市の認定を受けると 「はまクル認定クラブ」 として運営できます



「はまクル認定クラブ」は、ゼロからクラブを設立するパターンと既存クラブから移行するパターンのどちらかが考えられます。認定のために必要な5つの要件を規約に明記して申請することになります。認定を受けたクラブには、中学校施設を無償で利用できるなど、市としての支援をしていきます。

子どもたちの成長や地域のつながりを育む新しいクラブのカタチを、一緒につくっていきませんか。

指導者として関わりたい方へ

スポーツ・文化芸術活動の 経験を活かし、生徒の成長を 支える指導者を募集



浜松市では、子どもたちの地域クラブ活動を支援くださる指導者を広く募集し、「はまクル人材バンク」に登録していきます。子どもたちのために、あなたのスポーツや文化芸術活動の経験を活かしてみませんか。特別な資格や条件などはありませんが、活動を開始するには、原則、動画視聴等の研修の受講が必要です。既に資格や専門的な知識を持つ方であれば、より大きな力を発揮していただけます。

参加を希望される方は、ぜひ「はまクル人材バンク」へ登録ください。

〈お問い合わせ〉

「はまクル」の取り組みについて、ご不明な点やご質問等がありましたらご連絡ください。クラブの認定手続きや認定クラブへの参加等についての相談も随時受け付けています。

浜松市教育委員会 学校・地域連携課 TEL 053-457-2405

E-mail chiikitenkai@city.hamamatsu-szo.ed.jp

浜松市「休日の部活動の地域展開」に関するガイドライン（案）【概要版】

※記載内容については、今後の検討や来年度の予算の状況によって、変更・修正する可能性があります。

部活動改革の背景

- 少子化の進展や学校の働き方改革の推進により、これまでと同様の学校部活動の継続が困難
- 国の方針として、部活動の意義を継承・発展させた、新たな価値を創出する地域クラブ活動へ展開

スケジュール

令和8年9月以降、浜松市立中学校の休日部活動は地域クラブ活動へ移行

- ※令和8年8月末で休日の部活動は原則終了（休日開催の一部大会については、学校部活動としての参加が可能）
- ※平日の学校部活動は継続、休日の移行が円滑に進んだ後に検討
- ※地域クラブの体制が整わない場合は、部活動指導員による部活動を経て地域クラブ活動へ移行

市が目指す地域クラブ活動＝「はまクル」

基本理念

- 「生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現」と「持続可能な活動環境の構築」

ターゲット

- 「活動を楽しみたい」、「上手になりたい」、「仲間や地域の方との交流を深めたい」という目的をもつ生徒
- ※勝利至上主義的な活動にならないよう、十分な配慮が必要

運営

- 営利を目的とした運営ではなく、できる限り低廉な参加費等を設定し、どの生徒も参加できるようにする

「はまクル」の趣旨に沿って市が定める要件を規約に明記して申請した団体やクラブ＝「はまクル認定クラブ」として登録

「はまクル認定クラブ」の概要

参加対象者

- 浜松市立中学校に在籍する生徒、浜松市の私立・県立・国立中学校に通学する生徒、浜松市内に在住の中学生が基本
- 希望するすべての生徒が参加可能＝意欲や技能等を審査して選抜する方法（セレクション等）は禁止
- ※安全面、平日部活動との連携等の理由から、学校や地域を限定して対象者を制限することは可能
- 中学生を対象の中心に小学生や高校生、大人も含めた幅広い年代の参加が可能

5つの認定要件

- [1]基本理念に沿った活動の目的及び活動計画
- [2]複数の指導者や活動場所の確保等の指導体制
- [3]コンプライアンス意識の徹底を図るための方策
- [4]公正かつ適切な会計処理及び資金管理体制
- [5]活動中のけがや賠償等のための保険への加入

9つの活動指針

1. 運営団体・実施主体

- ・運営団体・実施主体は、中学校地域クラブ、スポーツ協会加盟団体、NPO法人、スポーツ少年団、総合型地域スポーツ・文化クラブ、民間事業者等を想定
- ・市民や地域団体、民間事業者等が、新たに団体を創設し、はまクル認定クラブとして活動を開始することも可能

2. 指導者

- ・指導者は、スポーツ・文化芸術活動の有資格者や経験者、保護者等を想定
- ・報酬等は、各クラブで適切な金額を決めることが可能
- ・指導を希望する浜松市立学校教員は、教育委員会の許可を得て従事することが可能
- ・「はまクル人材バンク」を設置し、適切な研修体制を構築

3. 活動内容（競技・種目、休養日、活動時間）

- ・部活動に設置していない競技・種目、文化活動等、多様なニーズに応じたクラブ活動が可能
- ・浜松市立中学校部活動運営方針に準じた活動
- ・原則として土日どちらか1日を休養日に設定
- ・1日の活動時間は3時間程度（大会等はその限りではない）

4. 活動場所（活動用具）

- ・原則として市立中学校の施設を活動場所に設定
- ・休日の昼間は、学校教育活動に支障のない範囲で、無償かつ優先的に使用
- ・学校備品の使用が可能（所定の借用等で申請）
- ・中学校以外の公共施設を使用する場合は、他の一般団体と同様の手続きが必要

5. 大会・コンクール等への参加

- ・活動の成果発表の場である大会やコンクール等は、クラブ員の主体的な選択により、参加することが可能
- ・中体連夏季大会など一部大会は部活動での参加が可能
- ・はまクル認定クラブが部活動のどちらで大会に参加するかにについては、クラブ員の希望を尊重しつつ、学校（部活動）とクラブ側で連携、調整が必要

6. 費用

- ・受益者負担を基本とし、クラブ員や保護者等の理解のうえで、活動の維持・運営に必要な範囲で、各クラブが可能な限り低廉な参加費等を設定
- ・経済的に困窮する家庭に対し、参加費等について適切に支援を行う取組を推進

7. 保険

- ・クラブ員や指導者は、自身のけが等を補償する保険と個人賠償責任保険に加入
- ・自転車利用者は自転車保険への加入が必須
- ・団体保険や争訟対応に関わる保険加入は各クラブ及び参加者の判断
- ・「浜松市学童等災害共済制度」の団体登録も可能

8. 学校との連携

- ・クラブと学校は、活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解や情報共有を積極的に実施
- ・特に学校に設置されている部活動の競技・種目のクラブは、大会の参加等、学校との密接な連携が必要
- ・活動中のクラブ員同士のトラブルや事故等について、保護者の了承を得つつ、学校に適切な情報を提供

9. 管理責任

- ・各クラブ及び指導者の活動時における安全配慮義務
- ・活動中に起こった事故やけが、トラブルは、各クラブの管理責任において適切に対応
- ・はまクル事務局内に、クラブの運営や創設に関わる相談窓口を設置

はまクル認定クラブの活動開始まで

はまクル認定クラブの運営をしたい方

指導者・スタッフの配置

- ◇ 代表者（指導者との兼務可）及び会計担当者（指導者との兼務可）、指導者を配置し、最低2名以上で構成
- ◇ 指導者が複数のはまクル認定クラブでの指導を行うことも可能
- ◇ 代表者は、平日の部活動を担当する教員も含め、指導を望まない方に参加を強いることがないように十分に配慮

申請に必要な書類

- ◇ はまクル認定クラブ認定（更新）申請書（第1号様式）
 - ◇ クラブ員名簿（第2号様式）
 - ◇ クラブ規約
 - ◇ クラブで使用する金融機関の口座番号が分かる書類
 - ◇ クラブ員及び指導者の保険加入が分かる書類
- ※令和8年4月中旬より、認定申請開始予定

はまクル認定クラブに指導者として参加したい方

指導者として活動する条件等

- ◇ 「クラブ代表者からの直接依頼」と「指導者等を希望するクラブに人材バンクを通じて派遣」の2つの方法で指導可能
- ※どちらの場合も「はまクル人材バンク」に登録することが必須
- ◇ 指導者として必要な資格等は特にないが、各種指導者資格の取得は推奨
- ◇ すべての指導者は、活動の開始までに本市指定の研修（主に研修動画の視聴）を受講することが必須

活動中の指導

- ◇ 体罰、暴言や暴力、ハラスメント等の行為の禁止
- ◇ 休養と水分補給の時間を確実に設定
- ◇ 暴風雨や落雷の危険性がある場合は活動中止
- ◇ 緊急事態の場合は、躊躇なく警察や消防等へ通報

はまクル認定クラブの活動に参加したい生徒、保護者の方

参加方法

- ◇ 市ホームページ（ポータルサイト）で各クラブの活動方針、活動場所、参加費等を確認
- ◇ 各家庭から直接クラブ担当者に、入会や体験・見学の意思を連絡

問い合わせ先 浜松市教育委員会 学校・地域連携課 部活動地域展開グループ
TEL 053-457-2405 E-mail:chiikitenkai@city.hamamatsu-szo.ed.jp